



全校研究だより

第10号
令和3年3月22日(月)
青森県立青森第二養護学校 研修部

基本おさらいシリーズ第1弾 ～道徳科の授業の充実を図るために～

2月の全校研究会でお伝えしましたが、事後アンケートで「道徳の基本的な考えについて、おおむね学ぶことができた」と約8割の職員が回答している一方で、「基礎の学びが不足している」という意見があげられていました。そこで、本号と次号では、授業づくりと評価の基本的な考え方について特集します。

「NITS」をご存じですか？「NITS」は「独立行政法人教職員支援機構」の略称で、教育の直接の担い手である教員の資質能力向上をミッションとしており、いつでもどこにいても研修が可能となるよう「校内研修シリーズ」を始め、講義動画などの研修教材を提供しています。今回は校内研修シリーズから「道徳科の授業の充実を図るために」（講師：文部科学省教育課程課教科調査官 浅見哲也 氏）を要約してお伝えします。

まずは、これまでの道徳の時間の授業の課題から見ていきましょう。

これまでの道徳の時間の授業の課題

▲主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話し合いの指導

…話し合いがどこをめざしているかわからない。



▲読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導

…文章中の言葉を答えさせようとする発問がある。
…主人公の気持ちは考えているが、他人事になっている。

▲望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始する授業

…授業者の特定の価値観を教え込む。
…子どもの知っていることを、おさらいのように行う。



◎こうした授業にならないために、「主体的・対話的で深い学び」の視点、つまり道徳科の目標の中に示された学習活動を行っていく必要があります。

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

「主体的・対話的で深い学び」はどのように考えたらよいか見ていきましょう。以下に記したのが『「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」』です。これは、「道徳科の目標の中に記されている学習活動と同じである」、と述べられています。つまり、このような学びが、「主体的・対話的で深い学び」となり、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」が実現されます。

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること

中央教育審議会（答申）28. 12. 21

「主体的な学び」「対話的な学び」については、主に3つの視点が示されています。

主体的な学びの視点

- ・問題意識をもつ
- ・自分自身との関わりで考える
- ・自らを振り返る

- ・子どもが「話し合ってみよう」「考えてみたい」という問題意識をもつ
- ・共通体験を想起させたり、発問を工夫したりする
- ・自分の良さや課題に気付かせる

対話的な学びの視点

- ・協働し、対話する
- ・多面的・多角的に考える
- ・学級経営の充実を図る

- ・子ども同士、教師、地域の人、専門家等との対話 → 自己内対話へ
- ・「自分はこれを大事にしたい」という納得解を見つける
- ・何でも言い合える雰囲気作り

◎「深い学び」について、「主体的な学び」「対話的な学び」によって自動的に実現するのではなく、**教師の明確な意図**が必要であると述べられています。



これを押さえた上で、深い学びにつながる指導方法の事例を見てみましょう。

深い学びにつながる指導方法の事例

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

・教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳価値の理解を深めること。

問題解決的な学習

・児童生徒の考えの根拠を問う発問や、問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問などを通じて、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせること。

道徳的行為に関する体験的な学習

・疑似体験的な活動(役割演技など)を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うこと。

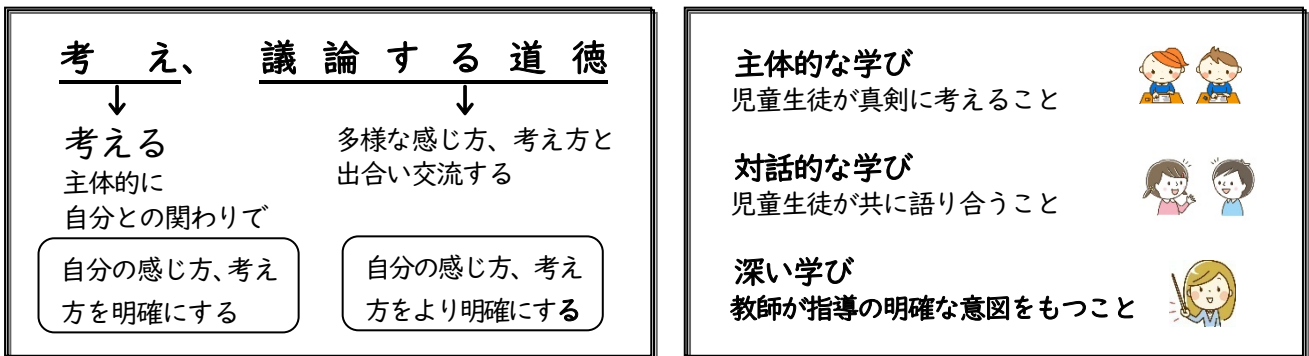
・これらは多様な指導方法の一例であり、それぞれが**独立した指導の「型」**を示しているわけではありません。

・これらを組み合わせて行うことが有効な場合もあり、**道徳科における具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであること**を覚えておきましょう。



「考え、議論する道徳」

「主体的・対話的で深い学び」の実現によって「考え、議論する道徳」への質的転換が図られることについて、以下のように示されています。さらに、「主体的・対話的で深い学び」は以下のようにまとめられています。



道徳科の授業で大切にしたいこと

道徳科の授業で大切にしたいことを以下にまとめました。

道徳教育と道徳科のつながり

道徳科のねらい(道徳的価値)を踏まえ、道徳科の授業で児童生徒に、**何について考えさせ、何に気付かせたいのか**を明確にもつこと。

学習指導過程や指導方法、教材・教具等の工夫は、**目的ではなく手段であることを再確認すること。**

・道徳科以外の教育活動で、道徳的価値(学習指導要領で示されている第3章特別の教科道徳の第2 内容)についてどのような学習をしているのか？
・様々な教育活動における指導で、ねらいとする道徳的価値について指導できたことは何か？また、課題となっていることは何か？

・教師にとって、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など、指導方法を工夫することは醍醐味でもあり、楽しさでもあるが、あくまでも目的ではなく手段であることを忘れずに！

研究係より



「学級経営の充実」による「何でも言い合える雰囲気づくり」や、「道徳的行為に関する体験的な学習」は、道徳授業PDCAシートの実践から先生方がすでに取り組んでおり、道徳授業の充実が図られてきていることが確認できました。今回紹介したことを参考にしながら、次年度の研究に取り組んでいきましょう。次号では「NITS」の校内研修シリーズから「道徳科に求められる評価」の要約をお伝えします。そちらもお楽しみに！